

## ① 金輪際（こんりんざい）

「金輪際〇〇しない」という時の「金輪際」は、「断じて」「ずっと」「絶対に」といった意味で使う言葉です。

「金」に車輪の「輪」、そしてきわという意味の「際」と書きますが、これは仏教の宇宙観からきています。

仏教の宇宙観によると、私たちが住むこの世界は、大きな円柱の形になっていて、それが広大な虚空に浮かんでいるのだといえます。

その円柱は、三つの輪からなっています。

円柱の最も底にあるのは風の輪と書く「風輪」、その上に水の輪「水輪」があり、そしてその上が「金輪」になっています。金輪は、私たちの立つ大地を支える基盤になります。「金輪」の上に、薄い大地が乗っているイメージです。

その「金輪」の「際」すなわち「金輪際」は、金輪の底をいいます。金輪の下にある「水輪」との境界線のことです。

「金輪際」は、地上から見て、最も深いところのことです。地面の底の底、大地を支える基盤の尽きるところ、という言葉になります。

それが転じて、「最後まで」「徹底して」といった意味合いの、現在使われている意味になっていったと考えられます。

## ② 仏頂面（ぶつちようづら）

無愛想な表情やふくれっ面のことを、仏頂面といえます。

仏頂面は「仏」の「頂」に「面」と書きます。

「仏頂」とは、仏頂に「尊」と書く、「仏頂尊」という仏さまのことです。仏さまの身体がもつ独特の特徴として、三十二種類のものがあげられているのですが、そのうちの一つに、「頭の上が盛り上がっている」という特徴があります。

これは、仏さまのすぐれた智慧、人々を助けるための知性を表しているといわれています。この仏頂の特徴そのものを、別の仏さまの姿として表したのが、「仏頂尊」という仏さまなのです。

この「仏頂尊」の表情は、他の仏さまに比べ、厳めしいものが多いようです。これは、人々の救済を真剣に考えている表情と考えられますが、慈しみの表情を

うかべる仏さまと比べると、こわい印象を受けることがあるかもしれません。

このことから、無愛想な表情やふくれっ面つらのことを「仏頂面ぶつちようづら」というようになったようです。

でも「仏頂尊ぶつちようそん」の厳めしい顔は、私たちのことを真剣いかに考えてくれている表情です。決して、現在言う所の「仏頂面」ではありません。

— 終 —